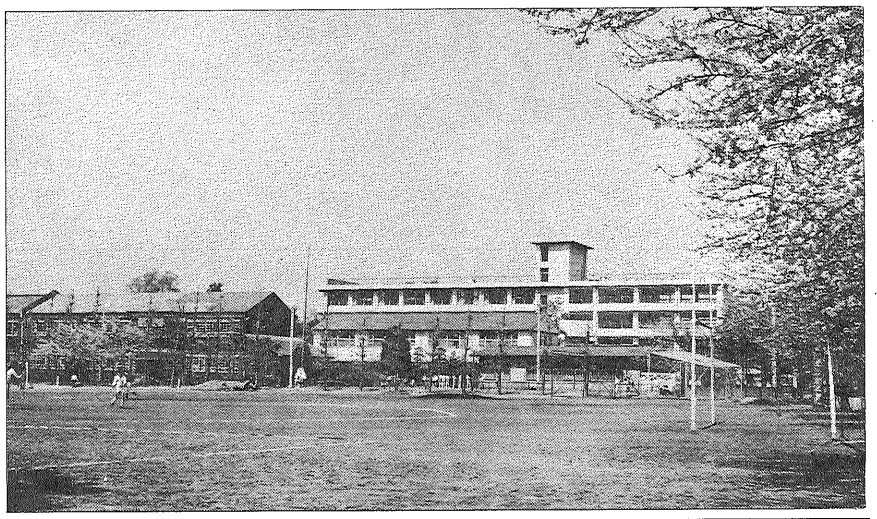
むさし同窓会

編集発行
武蔵野市境4－13－28
都立武蔵高校
同窓会編集委員会
(電話武蔵野(51)4554番)
印刷所　三幸印刷社
武蔵野市境3－1－10

新任の先生方

今泉郁夫先生	横田和彦先生	浅井晃先生	黒沢完治先生	中村智先生		
～芝商高より	～広尾高より	～南葛飾高より	～墨田川高より	～千歳丘高より（教頭）		



会員一同の手で 素晴らしい同窓会に

――新事業計画中――

母校においては、待望の特別教室（理科四教科）鉄筋四階の増設も完了し、近々使用開始されるとのことである。

風雪二十八年、学校も、学校をとりまく環境も、めまぐるしく変って来た。

同窓会も、学校とともに歩んで来た。活発とは言えなくとも、役員はじめ、多々ある問題を乗り越え、今日に至ったことはできつつある。今後は、もっと社会的にも有意義な活動を積極的に進めて行くつもりである。

一年前より、在校生の同窓会積立金の値上げをした。その結果、年間、百万円ほどの積立てができることになった。長期の計画を立てていけば、かなり大きな仕事ができるのである。進学者を対象とした、奨学金制度とか、同窓会事務室建設等々いろいろ考えられる。

役員会でも検討中であるが、会員のより多くの人々に意見を出していただき、すばらしい計画を立てたいものと思っている。

総会について

同窓会総会は毎年、母校体育館で行なって来たが、体育館という構造上、会場設営にも限りがあり会員の皆さんも、集まりにくく、総会の開催される頃には、各教室にチリヂリになってしまうという現状です。その対策案として二、三役員会に提出されていますが、拾い上げてみると、一、公会堂等を借りて行う。二、椿山荘等の会場を借りる。三、母校で、体育会等を合せて行なう。四、集中登山をする。等々である。

今後総会がどんな形で行なわれるかは、会員の皆さんとも相談の上、決めて行こうと思う。（アンケート等でデーターを集めたい）

同窓会員のサークル活動

現在、合唱や、演劇のサークルが活動している。本紙上でもいくつか取り上げてきた。

同窓会の文化活動の一端としてサークル活動はどんどん奨励したいと思う。

同窓会活動は、母校発展のために協力することも一ツではあるがもっと大きなことは、同窓生同志の旧交を暖め、自己をみがく場となるようにあらゆる機会をとらえ協力することにある。

「母校に同窓会事務所あり!!」大いに利用されんことを。

新館増設教室配置

1階	化学教室	化学準備室
2階	物理教室	物理準備室
3階	生物教室	生物準備室
4階	地学教室	地学準備室



この三月の卒業式の時、在校生総代の槇島君が、伝統ということにふれてクラス別けその他の問題について論じていた。大部この問題は生徒の間に波紋を投じたようで、私も投書をもらった。卒直に云って武蔵高校は安泰ムードの中にひたっている学校で、何か変革を加えようとすると、なかなか大きな抵抗に出くわすという感想を持っている。前例とか古例とかいうことが重んぜられるのは、いい面もあるが、それに足をとられて身動きできないような面がもしあるとすれば、改めるにやぶさかであってはならないと思う。何もしないのが一番無難であるといって手を束ぬていたら、ますます時代に取り残されて行くばかりだろう私はいつも生徒諸君に芭蕉の俳論の中の「不易と流行」をひいて話をしているが、芭蕉が云ったように、真にすぐれた俳諧――芸術作品――は、いつの時代になっても変らぬ不変の価値（不易）の面と時代に応じて変わる（流行）の面とをあわせ持っている。学校もそれと同様で、なるほど伝統は尊重すべきであり、伝統のない学校は悲しい存在であるが、その伝統が桎梏となって自由な活動と発展を妨げているとしたら、いさぎよく変革の手を加えるべきだと思う。もちろん何等の定見のない朝令暮改式のやり方は厳にいましめるべきであるが。私はそういう見地から今回の一聯のクラス別け、その他の問題にしても、武蔵にもその時機が来た、機は熟しつつあるのだという感想を持っている。そしてこの機運をうまく捉えて上昇させることが、近年安泰ムードにひたって、ややぬくぬくとしたきらいもないではなかった武蔵に活を入れ、新風をふきこむ源となるとしたら、大いに歓迎すべきことではないかとも思っている。それがとりもなおさず武蔵の伝統を生かし、新しい時代に即応する道でもあると思う。学校群制度ができたとき、それでは各学校の伝統は皆ご破算になって、みんな画一化された高校ばかりになりはしないかという懸念があったが、そんなあやふやな伝統では伝統が泣こうというものだ。と同時に現実の問題として、新時代に取り残されないためにも、又伝統を生かすためにも、新しい工夫が当然あって然るべきものと信ずる。その労苦をもいとうようであったら頑迷固陋のそしりは免れまい。直ぐ何か云うと予備校化云々の声が出て来るが、そんな取り越し苦労はやめた方がいいと思う。要は各人の心がけ仕第で武蔵の伝統を生かすことも殺すこともできるのだ。何もしないで徒らに疑心暗鬼をしているほど、つまらないことはない。

移りゆく武蔵

学校長　井上敬一

転退職の先生方



高橋　安先生
① 退　職
② 21・6・30
③ 22年



狩野直助先生
① 北高校へ（教頭）
② 40.6.1
③ 3年

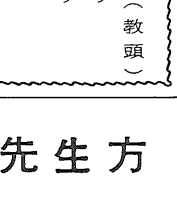


小林哲也先生
① 大泉高校へ
② 38・4・1
③ 5年



市毛勝雄先生
① 小石川高校へ
② 36・4・16
③ 7年

松岡　正
① 九段高校定時制主事
② 20.12.31（全日制）
33. 8. 1（定時制）
③ 13年（10年）



伊藤　隆先生
① 日本工業大学へ
② 42・4・1
③ 1年

① 転任校
② 着任年月日
③ 在籍年数

同窓会総会

五月十二日（日）

一時より体育館

☆現旧職員懇談会

かって武蔵で共に学び共にフォークダンスを楽しんだ、先生方が多数おいでになります。

むさし祭

9月22日～23日

移り行く武蔵、伝統は？

◇……　現在、母校においては、校内外に新しい教育環境が生まれ、多……◇
◇……　少の戸惑いと不安それに期待も大きく含んで新しいスタートを切……◇
◇……　ろうとしている。……◇
◇……　その一つはオールクラス制（三年間クラス編成をかえない）の……◇
◇……　廃止であり、二つには、昨年度より実施された学校群制度であり……◇
◇……　三つ目は、選択科目の大巾変更である。……◇

今年の一月、井上校長の発表により、一年生から二年生に進級するときに、クラスの編成替えをすることがすでに、職員会議で決定されたことが生徒に知らされた。

このことについて、事前に生徒には知らされておらず、当然意見を生徒から求めることなども行なわれていなかったので、無視された、と不満を表わすものも多数あった。それと同時に、新学期より芸術科目選択、そして家庭科の選択等についても大巾な変更が行なわれるとのことが発表された。特に女子については、二年生の時に全く芸術科目が取れないなど、問題点が多いようである（その分は家庭科必修）。

これらの変更やら新しい試みらが行なわれることは決定的なのであるが、伝え聞いた同窓生の中には、我々が築いてきた良き武蔵の伝統が崩されてしまうのではないか……？というような疑問を持ち、同窓会でも意見をまとめて反対なら、反対意見を出すべきである。という見解を示す人も現われて来ている。

これらの疑問は当然起りうるし又同窓生の母校愛も大なるものがある。そこで今回は、同窓会として統一見解を発表する、しないは別として、先生方、又生徒諸君、それに一部同窓生の皆さんは、どう考えているのか、ということを載せ、同窓生諸君の判断の資料にしていただきたいと思う。

我々の大きな心配の一つは、我々が青春時代を過し、若い精神、肉体を鍛え、伸ばした、「母校」最良の思い出の一つとなり、心のどこかに残っている「武蔵高校」が本質的に変ってしまうのではないか、ということであろう。

先に述べた諸事項もその一つであるが、さらにもう一つさびしいことがある。それは、近年二・三年間に、永い年月、母校で教鞭をとっておられた、先生方が、次々と武蔵を去っていかれたからである。我々と一緒に、フォークダンスをし、ファイヤーを囲み、そして、厳しく学問にとり組み、武蔵の「伝統」を作り上げて来た先生方なのである。

時代の流れとともに、母校も成長して行くのであろう。転退職された先生方は、すでに武蔵での使命を果されたのである。

明日からは、バトンタッチされた、新しい先生方が、さらに素晴しい「武蔵」を、後輩の諸君と共に育てて行ってくれることであろう。

良き伝統をさらに伸ばし、マンネリを正してほしいと願ってやまない。

創造性に満ちた 活気ある武蔵に

関塚 正



この春、校内でいろいろと話題をよび、論議の対象となったことに、クラス替えがある。これは、生徒が一年から二年に進級するとき、クラスのメンバーがかわることで、本校においては新しい試みである。

往年、一二回、クラス替えをしたことはあるが、永くは続かなかった。それは、当時は各教科とも選択授業であって、毎時間毎時間がちがった生徒構成で講義を授けていた（HR単位の授業は、化学などの特定の科目にかぎられていた。）ため、クラス替えの必要がなかったからであろう。

ところが、昭和三十八年より、新しい教育課程によって時間割がくまれ、各教科ともHRごとの授業となって、選択の授業は一教科もなくなった。それから既に五年間が過きたわけである。そして現在の武蔵を観ると、以前とはちがった、さまざまなことに気付くことである。その一つは、定着しつつある沈滞ムードである。往時は生徒会にしても、学校行事にしても、各クラスから、いろいろなタイプの生徒が出て、活発に動いていた。体育祭でも、アッと驚かされるような出しものがあった。ところが最近は、まとまった、要領のよい運営はされるが、創造性の乏しいものとなっている。その二は、生徒会や、クラブ活動における、特定クラスの専有化的傾向である。或るクラブが、或るクラスの生徒で占められてしまう。これでは人材が集まらず、クラブの活発な活動が望めない。

高校生活では、広く人々と交わり、自己をその中にみつけ出して行く行動力がほしいわけで、これは、かっての選択授業の時は難なく行なわれていたことであったが現在ではなかなかむずかしいことであって、クラス替えをすることによって、解決されるものと期待している。

さらに、卒業後はどうか、広く世間に目を開き、自己を多くの対象の中において、きびしく評価して行こうとする努力が必要であるところが、武蔵の卒業生には、ややもすると、このことに欠ける傾向があるのではあるまいか。大学入試に失敗して浪人し、予備校に通っても、武蔵時代の友達と一緒に行動するだけで、新しい友を求めず、予備校内に渦巻く熾烈な競争の中に飛込ます、互いに武蔵出身者同志で友情をあたためあい、自己の不足をなぐさめあっている傾向が強いと聞く。これでは、浪人したことによって、より高い大学に入れるという期待の実が結ぶわけがない。

職場では職場の中に、大学では大学の中に友をつくり、舞台せましと活躍したいものだ。青年は、絶えず前向きに事を考え、人生にきびしく立ち向かわなければならないと思う。このような積極的な態度は、高校生活の中で養なわれるものではあるまいか。

私は、十九年間、武蔵高校に在職して、最近ほど、生徒諸君に対して「本質的にものごとを考えてほしい」と要望したくなったことはない。

クラス替えが発表されると、いろいろの意見が出て来たが、みな方法論に立脚したものが多く、例えば、手続きが悪いとか、生徒の希望調査をしてからきめなかったのかとか、HRの親和がようやくとれるようになったのに、それを打ちこわすのかとか、友情を引きさくのはいけない等で、しかも、それを珠宝のように大切にし、立派な意見であると思い込んでいるようであった。

最近、マスコミの影響のせいかわれわれの考え方が、どこか方法論尊重に傾きがちである。もっと本質論に立脚して、人生を深くみつめるべきだと思う。

クラス替えだけが、理想的な型であるとは思わないが、クラス替えをして、新風を武蔵に入れようとする先生方の熱意こそ、尊いものだと思う。

武蔵高校は、現在青年期なのか壮年期なのか、いろいろと意見もあろうが、私は、いつまでも青年期で活気に溢れた学校であってほしいと念願している。

むさし資料室

改革された武蔵

時代は変る。世の中の変遷に従って、武蔵もいろいろと変って来た。武蔵の伝統だという、のんびりムードも、その中で育ってきたに違いない。今回は、武蔵の制度のうつり変りを時代と共に追って行こう。

時はさかのぼって、昭和二十四年のこと。終戦後、良いにつけ悪いにつけ様々な制度がはいってきた。その影響を受けて、武蔵は週五日制をとった。その頃は、すべての科目に並の授業。その二年後昭和二十六年、〝週五日制〟から〝二週間十一日制〟に改められた二週間単位に時間割りが組んであり二週間目の土曜日が休みだった。その方が〝週五日制〟に比べて選択に無理がないのだそうである。

ところが、とかく上べだけを真似たものは、うまくいくはずがなく、また武蔵の場合も、例外ではなかったようだ。またさらに、教育も高度なものを要求されるようになり、必修科目が増えてきた。そこで、昭和三十三年〝週六日制〟になったのである。三十八年には、今まで二期制だったものが三期制になり、三十九年には、三年の七時間を残して選択科目はなくなった。

戦後二十年、武蔵の制度はこのように変ってきたのである。それは、常に教育の向上という目的であったのであろう。

武蔵の伝統破壊

（十九期女子）

みなさんはもう御存知でしょうか。今年から二年と二年の間でクラス替えをするということを。武蔵の伝統であるオールクラス制が壊れようとしているのです。学校側のあげる理由の一つとして、他のクラスの人達との交流が少ないからということをあげています。

私はこれを聞いて相当なショックを受けました。一つはこの学校側の意見どおりに受け入れ、伝統を保持しようとしない在校生への疑問と、もしこれが実体ならば、なんとさびしいつまらない学校になっているのかという憤りでした。

私の高校時代はといえば、小さな不満はありましたが、大学生となってみた今、つくづく武蔵の自由な雰囲気はなかったと思い、また三年間クラス替えもせず、制服もなかった自由な校風をこの上なく誇りに思い、自慢し、受験で追いまくられ暗い高校生活を知った人をうらやましがらせました。そのよさがなくなってしまうなどと考えただけでも悲しくなります。このよさは武蔵を卒業された方ならば必ず感じていることでしょう。それをずっとずっと後輩にもおしえてあげたいと願わずにはいられません。何かじっとしていられないような気がします。けれどもこれは、一年間やってみて様子をみてから、この先ずっと続けるかどうかを決定するそうです。同窓会会員のみなさん、この決議に反対するならば、同窓会としての意見をまとめ、声を大きくして、反対しなければならないと思うのです。

そして、この輝かしき武蔵の伝統をいつまでも保持させたいと願ってやみません。

クラス替えについて

（十九期男子）

今年の新入生からは一年から二年に進級するとき、クラス替えを行うと言う事だが、賛否はともかくとして、武蔵がぼくの頃とだんだん変っていってしまうのはなんとなく寂しいと思う。ぼくの頃は三年間同じクラスということであり、これはぼくとしては、初めてのことなので、入学した当時は、珍しいなという程度で、別にどうだこうだと考えたことはなかったが、武蔵を離れた今ふりかえってみると、三年間同じクラスであるというのは、いいものだなあと思われる。クラス替えをするかしないかで影響するのは、勉強のこともそうであるが、ぼくは友達関係が一番であると思う。三年間同じクラスでは、クラブ活動などを行わない人も多いので、友達との交際範囲が狭くなるという心配がある。確かにクラス替えをすればそれだけ多くの生徒と知りあえるわけであるけれど、入学早々の一年間でクラス替えをされたのでは、友達同志がお互いに親密になる前に別れてしまう様な気がする。何か学校外で活動するにも、クラスの仲間やクラブの仲間と行うことが多いので、一旦クラスが変ってしまえば、廊下で会った時ヤーと声をかける程度で終ってしまうのではないだろうか。それよりかは三年間同級生として付き合えば、単なる同級生であったということに終らず、生涯を通じての友達というものが、できやすいように思う。第一同じクラスにかわいい女の子でもいればしめたもので、三年間も同じクラスでいられるわけである。三年になれば受験など本来の高校生活が送りにくいこともあるので三年間同じクラスであってもけっして長くないと思う。しかし広く人間を知る意味で多くの人と付き合うことも必要であるからどっちがいいとも言えないが、ぼくにとってはすばらしかったこの制度が、なくなってしまって残念である。

在校生の声

――学校新聞より――

さる一月二十六日、放課後、一D教室に於いて、編集部主催で、〝クラス替えについての討論会〟を行なった。

学校側からは、校長・教頭先生をはじめ約十人の先生方、生徒側からは、約七十人が出席し、編集部としても感謝にたえない。しかしこの現象は「クラス替え」の問題が武蔵全体に大きな影響を及ぼしていることを意味するものであるといっても過言ではないだろうことである。

○クラス替えの目的は？

学校側のクラス替えに対する目的としては、第一に高校生という若い時代に広い付合いをして社会性をつけるため。第二に何事においても積極性を増すため。というのである。

○友情関係はどうなるか？

「クラスの中で、せっかく知り合った人とわかれてしまったら、友情も深められない」「五十人と接していくには、一年では短かすぎる」これらの生徒側の不満に対して、学校側の意見は、「クラス替えをすると、友情関係が尽きてしまうというのでは真の友情ではない。五十人を知るのはたいへんであるが、だからといって五十人でよいと満足してしまってはいけない。刺激し合うことも必要だ。もっと自分に厳しくして自分をみがくべきだ」ということだった。

クラス替えの目的は広い付合いを望んでいるようだが、我々は少々小さな自己満足的なものに、とらわれすぎているのではないだろうか。クラス替えをすることによって、我々は何を得、何を失うかそれらは我々にどんな影響があるか考える必要があるだろう。

○クラス替えの方法はいかに

生徒側から、「クラス替えはいったいどのような方法で行なうのか」「直接関係のある一年生の意見を取り入れないのか？一方的にやっては不平がでるのではないか？」などの質問があった。これらの答えとしては、「進路別・能力別には分けない。現在東京都の中で、四校が能力別、四十校が検討中である。我が校のクラス替えはそういうものを目的としていない芸術の選択におけるクラス孤立をなくすために、一つのクラスに三つの選択者が、それぞれ混合になる。また生徒の意見を取り入れるということは、たいへんむずかしい。学校側の自主性を認めて任せてほしい」とのことだった。

○学校群制度との関係は？

「この問題が出されたのは、学校群制度の影響があるのか」この質問に、学校側は、「これは数年前から考えられてきたものであるから、学校群制度とは関係ない」とはっきり答えた。

○伝統はいずこへ？

「今までのオール・クラス制はどうなるのか、縦のつながりは、利点の一つであると思うが……」「クラス替えをする代りに、もっとクラブ活動を活発にしたらどうか」これらの質問に対して、「クラスの伝統といわれるが、それでは、二・三年生から何を受け継いだか、伝統・校風は話し合って受け継いでいくものだ。また現在のクラブ活動は、あるオール・クラスの独占であるところが多い。生徒会活動も同様である。クラブ活動の活発化とクラブ替えと取替えてはこまる」という答えだった。

伝統、我々今の武蔵生にとっては、この言葉は捨てがたいものである。伝統はなくしたくない。これはみんなの願いであろう。しかし伝統は、いつまでもだらだらと続くものであってよいのだろうか改革をし、また改革していくものではないだろうか。